



発行所
三池炭鉱労組
大牟田市不知火町2
電話 33033番
編集兼 山下 開
発行人
年間600円 送料共

野岳湖畔で平和
友好祭
この十九二十の両日、大村
(長崎県下)の野岳湖畔で、若者
たちを集めて九州青年学生平和友
好祭が開催される。大地評ではそ
の準備にかかるという。

CO闘争はいまから

誠意みせない会社、政府

CO特別法の成立を背景に、会社とその具体的実施をせざるための交渉と、労働省にその具体的
実施をせざる交渉は、八月初旬に三池炭組職労委員会のメンバーにより総評・炭労との連携
を保ちながら精力的におこなわれてきたが、そのなかで三井鉱山はまったく誠意な態度をみせ
ず、労働省もさきあらば骨抜きをしようとしていることが明らかとなった。たしかに今から
である。

議事録の説明だけ

八月八日ひらかれた三井鉱山と
の交渉で、会社側はつぎのように
答えた。
①法制定後、労働官と労働基準
局長より議事録に基づき説明が

あったので、正式にどうせよ
という申し入れはない。
②会社自身の考え方は、従来から
一貫してきている通り二二三
審の結論をみたうえで総合的に
検討したい。

③既成事項については、あくまで
局長より議事録に基づき説明が

第二番も骨抜き はかる

八月九日にひらかれた三井炭と
の交渉では、「医師の見解は事
前に労働省に出してもらいたい」と
と労働省側は語り、医師同志が誠
意をもってCO患者の検診をする
という第二番の骨抜きにさっそく
かかっていることを表明した。
CO患者の完全補償要求と三井
の責任追及はいまからである。

あきらかに会社の手抜き

四十名(大爆発後)の犠牲者

即死一名、重傷二名
八月十日朝五時三十分ごろ、宮
浦第一上層西三〇御本昇りの坑口
から約九千三百メートル地点の掘
進現場で、切羽全面三枚が倒壊す
るという大落盤が起り、中掘り
中の掘進工竹原武弘さん(四十五
才)は殉死、同じく掘進中の田中喜
楽さんと係員中村俊雄さんは重傷
を負い、天領病院に収容された。
この災害原因は、明ら
かに会社の保安サボ

三化・東庄合併へ

組合側、体制強化に着手

去月十七日三井化学は、関係労
組に対しての「東洋高圧」と
企業合併に踏み切るため、双方
書きを取りかわした「三井から
三化へ、具体的な合併措置は来
てきた。三井から老練にムチ打た
れたが、三井の老練の新屋
都市計画を達成するために出
現した田中市政は
さっそく市職労の
組合運動をぶっ
ぶす動きをみせて
きた。
七月二十五日、
市職労がひらいた
職場分長会議に
ILO条約を口実
に賃金カットする
ことを通告してき
た。
このような組合の
会議はこれまで慣行として認
められてきたことであり、田
中市長は三井への忠誠ぶりを
示すために突然この弾圧をか
けてきた。
これに対して市職労では
ただちに態勢をと
とのえ、八月十日以降
無期限に、日直拒
否闘争に、また八月
二十一日以降無期限
に超勤拒否闘争に突
入することを決定し
た。
悪意と偏見の田中
市長はさらに第二段
の弾圧措置として夏
季休暇の中止とい
うまったく狂気のサ
タを打ち出している。
市職労はこれに反
応し、田中市長の
反動ぶりはますますあき
らかになってきた。

地域闘争の先頭に

主婦会、定期総会ひらく

主婦会は八月八日大牟田労働会
館で定期総会をひらき、今年度の
方針と新役員を決定した。
主婦会は地域、職場における反
合理化闘争の強化と、反戦平和の
たたかいの強化を二本の柱として
うたっているが、反合理化闘争の具
体的目標としては
(1)地域や職場にかけられる合理化
の実態を知りましよう。
(2)内職先の職場で主婦会活動を

う結びつけて活動してゆくかを
話し合ひましよう。
(3)健康を守るためにたかひについて討
議しましよう。
(4)子どもの幸せを守るためにたか
かひましよう。
(5)託児所作り運動を積極的にすす
めましよう。
(6)内職についての位置づけをみん
なで討議しましよう。
(7)六つをかね、その具体化と

して
(1)家族会議の定着化。
(2)班会議の定着化。
(3)学習会をすすめる。
などをあげている。
なお、このほか反戦・平和のた
たかいとして母親大会や原水禁運
動への積極的な参加も決定してい
る。
決定された新役員はつぎの通り
本部役員

- | | |
|------|--------|
| 会長 | 長久保 時江 |
| 事務局長 | 島 文枝 |
| 組織部長 | 森川久美子 |
| 会計 | 谷本 静枝 |
| 生活部長 | 川野よし子 |
| 監査 | 江頭マツ子 |
| 生活部長 | 永江ツヤ子 |
| 生活部長 | 北村チサ子 |
| 生活部長 | 与田キクエ |
| 生活部長 | 林 フジエ |
| 宮浦支部 | |
| 支部長 | 中島 静子 |
| 組織部長 | 西田 豊 |
| 生活部長 | 田中 静江 |
| 四山支部 | |
| 支部長 | 菊川五百子 |
| 組織部長 | 浦川ふい子 |

- | | |
|------|--------|
| 生活部長 | 今村つぎえ |
| 三川支部 | |
| 支部長 | 荒木 悦子 |
| 副支部長 | 松藤 信子 |
| 組織部長 | 室野井スエノ |
| 生活部長 | 山崎 一富 |
| 本所支部 | |
| 支部長 | 田中マツエ |
| 組織部長 | 平田チサ子 |
| 生活部長 | 江見モリエ |
| 港務支部 | |
| 支部長 | 大石知恵子 |
| 組織部長 | 下川 みや |
| 生活部長 | 古賀美恵子 |
| 三作支部 | |
| 連絡員 | 上形富子 |

田中市政

組合運動ぶつつぶしにかかる

去月十七日三井化学は、関係労
組に対しての「東洋高圧」と
企業合併に踏み切るため、双方
書きを取りかわした「三井から
三化へ、具体的な合併措置は来
てきた。三井から老練にムチ打た
れたが、三井の老練の新屋
都市計画を達成するために出
現した田中市政は
さっそく市職労の
組合運動をぶっ
ぶす動きをみせて
きた。
七月二十五日、
市職労がひらいた
職場分長会議に
ILO条約を口実
に賃金カットする
ことを通告してき
た。
このような組合の
会議はこれまで慣行として認
められてきたことであり、田
中市長は三井への忠誠ぶりを
示すために突然この弾圧をか
けてきた。
これに対して市職労では
ただちに態勢をと
とのえ、八月十日以降
無期限に、日直拒
否闘争に、また八月
二十一日以降無期限
に超勤拒否闘争に突
入することを決定し
た。
悪意と偏見の田中
市長はさらに第二段
の弾圧措置として夏
季休暇の中止とい
うまったく狂気のサ
タを打ち出している。
市職労はこれに反
応し、田中市長の
反動ぶりはますますあき
らかになってきた。

職場に闘いの根を

宮浦 高 椋 龍 生



落ばんで
鉄柱にクビをはさまれ
なかが 殺された
口先だけの保安に
うむをいわさず殺された
安い石炭を掘らそうとする
そいつのために
なかがは
むぎむぎクビをはさまれて息絶えた
ひとかけらの
石炭(スミ)よりかるく
いのちを奪われた
合理化は
家族ぐるみの
くらしも
ちつばけなしあわせさ
みさかにもなく
しつようにくだがってくる
黙っている誰か彼も殺される
おれたちのいのちはおれたちみんなを守る
ひとりひとりがひと口ずつ
抵抗の狼火(のろし)を上げ
血のぬくもりの流れあう手をつなぎ
職場に
じつくり
闘いの根をはるのだ